

しまなみロード

9月19日(土) ~ 9月22日(火)

IN しまなみ海道~大浜崎キャンプ場、しまなみふれあい交流館~

	午前	午後	夜
1日目	尾道に向けて出発	向島へ出発、因島へ出発	振り返り
2日目	生口島へ出発	大三島へ出発、買い出し	振り返り
3日目	今治市へ出発	今治市内散策	フェリー乗船、振り返り
4日目	関西に到着・解散		

一日目： キャンプ期間中全て快晴という絶好の活動日和にみんなの気持ちも意気揚々です。JR尼崎から尾道まで在来線を利用し移動しました。4時間半と長丁場の中、自己紹介や好きなものを話し合ったり、周りの事を話したり、有効に過ごされていました。尾道に到着後、お弁当を素早く食べ、自転車を借りに向かいました。自転車の使い方、諸注意をしっかりと聞き、自転車の調整をしました。走行試験をクリアし、渡船にて「向島」に行き、スタートしました。走行する道の横には車も走っており、出発前の笑顔は消え、誰もが真剣な顔つきでした。道を確認し一生懸命走っておられました。向島から因島大橋を渡り、「因島」へ渡りました。すぐに本日のゴールである『大浜崎キャンプ場』に到着しました。到着後、自分達の寝床であるテントを設営しました。思った以上に大きなテントなので、一つ一つ確認しながら設営しました。設営後は、晩御飯が出来るまで振り返りを行いました。内容は「今日の出来事」と「翌日の自分達の目標」を絵日記として描くものです。グループの一日の動きから、どんなグループにしたいか、何を頑張りたいかを話し合い、それを絵日記に表しました。明日は本格的に走る一日です。みんなの頑張りや成長が楽しみです。



二日目： テントから出ると、身支度の準備を始めました。朝食を終え、テントを片付け、出発の準備が出来たグループから走り始めました。本日の走行距離はおよそ30kmです。ほんの些細な原因で揉めているグループや、ふざけて自転車のチェーンを外してしまったグループ、道を大幅に間違えてしまったグループなど、沢山のトラブルが起こりながらも、それでもゴールしたい気持ちは同じなので、最終的にはゴールに向かって共闘されている姿がありました。2日目と3日目は自分達で昼食と夕食を選び買うので、それも楽しみにされていました。最終走行日にお小遣いを贅沢に使う為、節約して使っているグループもありました。次々と島を渡っていきます。本日最後の島を渡り、宿場の『しまなみふれあい交流館』に行く前に夕飯の材料を購入します。いつもは最寄りのスーパーに買いに行くのですが、本日に限って定休日というトラブルが起こり隣のスーパーへと向かいました。結果時間が大幅に過ぎてしまい、施設到着の頃は日も沈んでいました。スーパーで購入した食材を使って調理をしました。カップ麺や惣菜など即席で済ますグループや野菜など材料を買ってしっかり調理するグループがおられました。食後は振り返り絵日記を作成し、ゆっくり入浴を済ませ、明日に備えました。



三日目： 朝はギリギリまで誰も起きず、ぐっすり就寝されていました。起床後、荷物の整理や布団の整頓など行い、朝食を済ませました。最後の道のりを出発しました。初め、空は曇っており、比較的走りやすい天候でしたが、昼前から一転夏の日差しのような厳しい暑さに見舞われました。島を渡るのも慣れ、途中で自分たちのタイミングで昼食を済ませ、疲れたら相談して休憩を取るといった確かな成長がありました。出発の「大三島」から「伯方島」へ、そして最後の「大島」へ渡り、しまなみ最後の砦である『来島海峡大橋』に挑みました。今まで渡ってきた橋とは高さも長さも比べ物にならない程大きく、橋へ登る坂道もとても辛そうでした。大橋を渡った後は今治城まで一直線です。休憩もせずひたすら漕ぎ続けました。そしてついにゴールの今治城へたどり着くことが出来ました。多大な疲れから、あまり喜びがなく、それよりも「お土産!」、「晩御飯!」の事で頭が夢中だったようです。ほとんど時間のない中お土産を購入し、夕食を済ませました。市役所に自転車を返却し、バスに乗り換え、フェリーターミナルへ向かいました。フェリーの大きさに皆唖然とし、まるでホテルのような内装に驚きと興奮でした。疲れも見られましたが、入浴も振り返り絵日記を描くことにも必死でした。



四日目： 朝起きると大阪南港でした。船内放送にも気付かないほど、みんなぐっすり眠られていましたが、一度スイッチが入ると元気いっぱいでした。朝食はみんな頑張ったご褒美も兼ねて船内にてバイキングをいただきました。行動食が主だったので、テーブルを囲んでしっかりと食事を取れる事に皆心が躍っていました。朝食を済ませ、下船するとホッとされている様子が見られました。駅近くの公園にて最後の振り返りを行いました。これまでとは違い内容が『今までの出来事』と『その出来事からこれからの自分』について描いていただきました。そして、尼崎に各々様々な想いのもと帰ってきました。



<キャンプ総括>

今年は真夏から少し遅くに行い、比較的涼しい中で活動が出来ました。メンバーの意識が非常に高く、誰からもゴールを目指したいという意思を十分感じる事が出来ました。ゴールへの目標意識は高いのですが、それまでの過程に対する意識の向け方がまだ難しかったようで、その結果がゴール到達時間に大きく影響しました。メンバー内の関係性の向上を重視する事はキャンプにおいて非常に大事ですが、先を見越して考え、行動する事も大事であると痛切に感じる事が出来ました。来年も同じ道程ですが時期や一緒に走るメンバーが違えば全く別物のキャンプとなります。来年も一緒にしまなみを走りましょう。(竹中 哲郎)